

「ほくりくダイアログ2025」開催報告

－ 目 次 －	「ほくりくダイアログ」の目的・経緯……………	1
	第1回有識者懇談会で提示した実施計画(案) ……	2
	イベントの実施内容 ……	3
	開催結果の概要 ……	11
	ワーク結果①:参加の土台づくり ……	12
	ワーク結果②:グループワーク ……	14
	ワーク結果③:全体シェア ……	16
	参加された若者からの感想 ……	23
	参加された有識者からの総括 ……	24
	今後の取組方針(案) ……	25

令和7年7月

北陸圏広域地方計画推進室

「ほくりくダイアログ」の目的・経緯

○北陸圏では、将来の担い手となる若者・女性からの意見を計画に反映させることを目的に、「ほくりくダイアログ」と題して、ワークショップを開催した。

■ 第1回WS(「ほくりくダイアログ2024」)での主な意見

✓ 第1回WSでは、新たな広域地方計画に反映してもらいたい事について提案を受けた。

[北陸圏広域地方計画への提案(一例)]

- 多様な価値観を受け入れるための教育の充実などによる意識の醸成
- 行政等による計画策定における委員会・協議会への若者の積極的な登用
- 若者がまちなかに集う商業施設の誘致や既存市街地の再編など中心市街地の魅力向上 など

提案内容は、中間とりまとめ(素案)[R6年12月公表]の広域連携PJなどに反映済み

■ 計画の充実化にむけた更なる意見聴取の必要性

✓ 「地方創生」では、若者の主体性を求めており、広域地方計画でも若者が自らが実践できる具体策を検討してもらい、計画に反映していくことが求められる。

地方創生2.0の「基本的な考え方」(令和6年12月24日 新しい地方経済・生活環境創生本部決定)

○各地域において、学生などの若者も含めて、「産官学金労言」の関係者が、「女性や若者にも選ばれる地域」となるため、自ら考え、行動を起こすことが必要ではないか。

✓ また、第1回WSで「意見を聴いて終わり」としないため、若者・女性が担い手となって実現する取組を提案してもらうことで、計画への信頼性や実行性を高めていくことが重要である。

若者・女性が自ら実践するアクションプランを提案してもらう場を企画

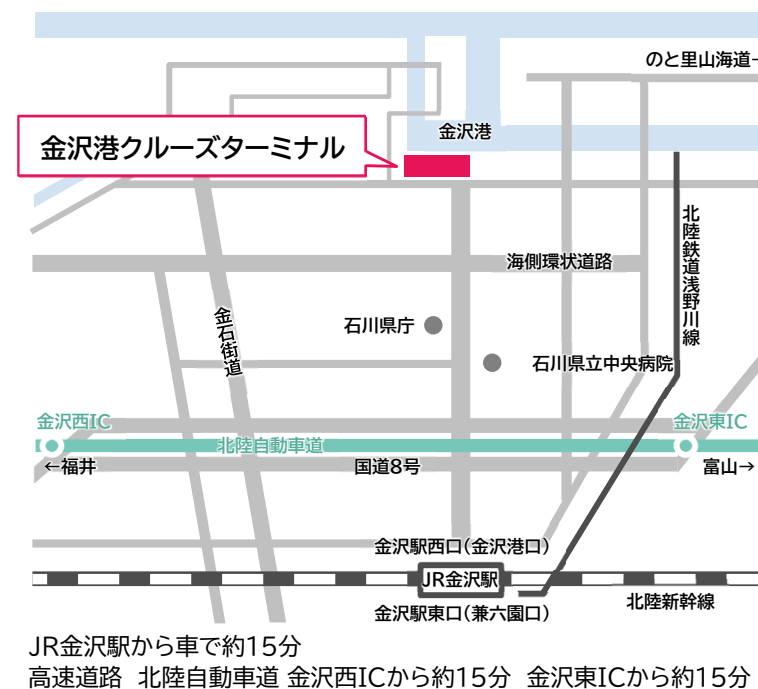
第1回有識者懇談会で提示した実施計画（案）

- 名 称 ほくりくダイアログ2025
- 開催日時 令和7年6月14日(土) 11:00 ～ 16:00
- 会 場 金沢港クルーズターミナル（石川県金沢市無量寺町リ-65）
2F セミナールーム ※ほくりくダイアログ2024(第1回)と同じ会場
- 開催方法 会場での集合参加による対面開催
⇒ 参加者同士が対話を行うことで自らが実践できる具体策を導くことが期待できるため、ワークショップ形式で実施
- 参加対象 ✓ 第1回WSの参加申込者に参加を打診する。
✓ 第1回WSからの参加者数を踏まえて、欠員などを追加で新規募集する。
✓ 各グループに行政職員を配置する。
✓ 追加の新規募集を行う際は、女性参加者の拡大を図る。
- 募集方法 一般公募（ホームページ・記者発表投げ込み）
 - ✓ 第1回WSの参加申込者には別途メールで連絡を行う。
 - ✓ 新規募集は予め関係機関等に協力依頼を行う。

イベントの実施内容

■ 実施概要

- 名 称 ほくりくダイアログ2025
- 開催日時 令和7年6月14日(土) 11:00 ~ 16:00
- 開催方法 会場での集合参加による対面開催
- 会 場 金沢港クルーズターミナル
2F セミナールーム
(石川県金沢市無量寺町リ-65)



※当日、金沢駅⇔会場の送迎車(北陸地整)を運行

- 参加人数 28名(4~6名×6グループ)

イベントの実施内容

■ 参加者のグループ分け

✓ 参加者が希望するグループワークのテーマに応じてグループ分けを設定

グループ	職業	性別	グループワークのテーマ
A	学生	男性	シティズンシップ 教育プログラムの開発
	会社員	女性	
	公務員	女性	
	会社員	男性	

グループ	職業	性別	グループワークのテーマ
D	学生	男性	中心市街地の にぎわい創出
	会社員	男性	
	会社員	女性	
	会社員	女性	

グループ	職業	性別	グループワークのテーマ
B	会社員	男性	シティズンシップ 教育プログラムの開発
	公務員	男性	
	会社員	男性	
	会社員	女性	
	市議	女性	
	市議	女性	

グループ	職業	性別	グループワークのテーマ
E	学生	男性	防災に強い レジリエンス創造
	会社員	男性	
	公務員	女性	
	公務員	男性	
	公務員	女性	

グループ	職業	性別	グループワークのテーマ
C	会社員	男性	中心市街地の にぎわい創出
	会社員	女性	
	学生	男性	
	学生	男性	

グループ	職業	性別	グループワークのテーマ
F	公務員	女性	防災に強い レジリエンス創造
	会社員	男性	
	会社員	女性	
	公務員	女性	
	会社員	女性	

[性別] 男性:14名 女性:14名 [職業別] 学生: 5名 社会人:23名

イベントの実施内容

■ 有識者懇談会委員の参加者

役 割	内 容	担 当	備考
総括	・ワークショップの総括など	高山 純一 委員	有識者懇談会座長 (公立小松大学)
メイン ファシリテーター	・ワークショップ全体の進行	水上 聡子 委員	有識者懇談会委員 (アルマス・バイオコスモス研究所)
アドバイザー	・グループワークのアドバイスなど	堀田 裕弘 委員	有識者懇談会副座長 (富山大学)
		柳原 佐智子 委員	有識者懇談会委員 (富山大学)

イベントの実施内容

■ 当日のプログラム

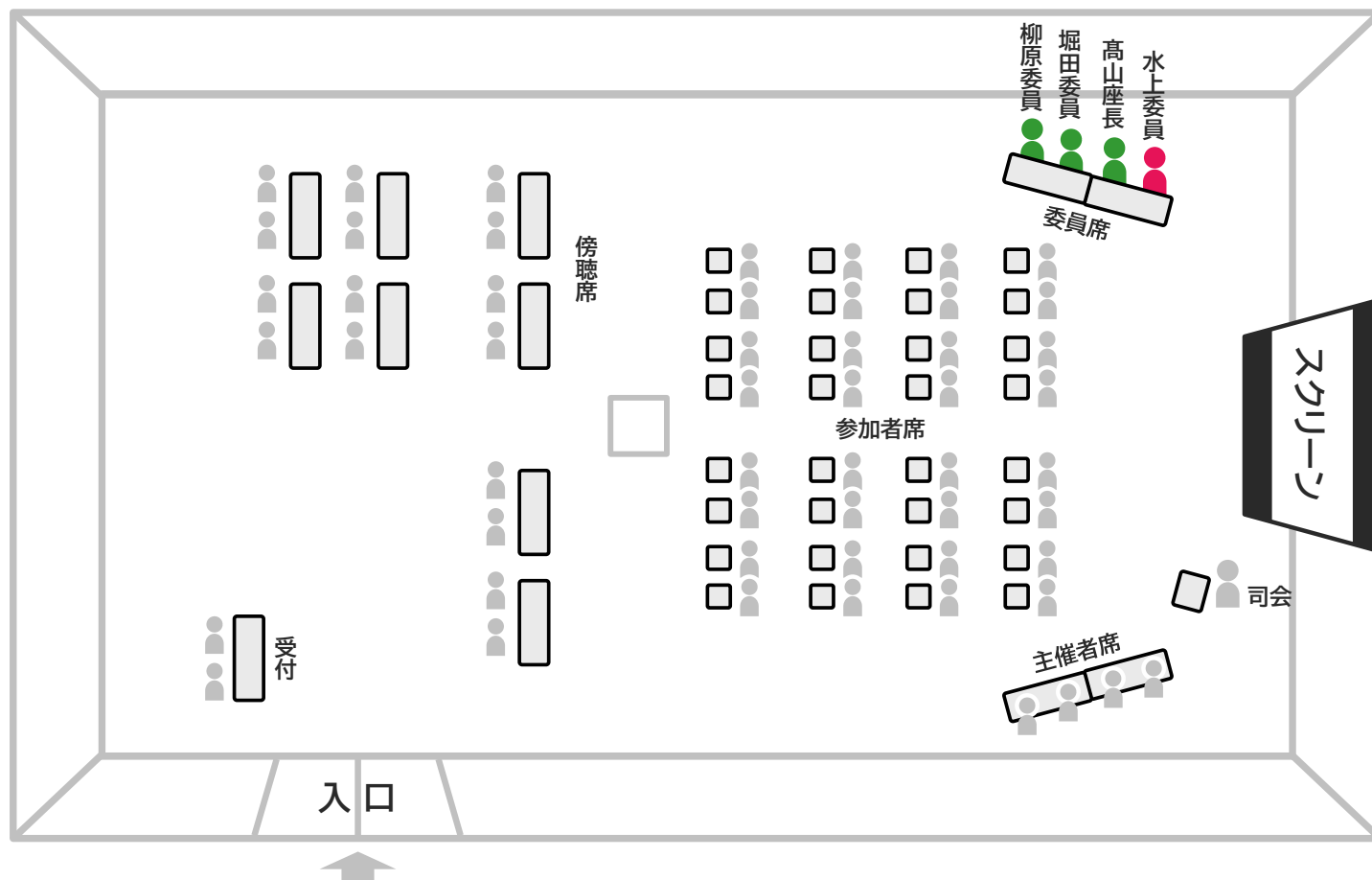
セクション		時 間	項 目	内 容
イントロ ダクション	1	10:45-11:00	受付	・リラックス
	2	11:00-11:40	開会・導入	・開会挨拶、開催趣旨の説明など ・広域地方計画の紹介(動画、配布資料など) ・第1回WSの開催概要・計画への反映状況
	3	11:40-12:00	グループ分け	・プログラム紹介、グループワークのテーマ説明及びグループ分け
ランチ ミーティング	4	12:00-13:00	ランチミーティン グ	・食事をしながら、新しい出会いを楽しむ
ディス カッション	5	13:00-13:30	参加の土台づくり	・ゴールの確認、参加のルール ・アイスブレイク(自己紹介名刺づくり)
	6	13:30-14:10	ワーク1	・新しい担い手として考える計画の実現 ①何ができるか、何をしたいか ②実現のために必要な要素、課題 ③自らの役割の認識
	7	14:10-14:20	休憩	・リラックス
	8	14:20-14:40	ワーク2	・提案を効果的に伝えるプレゼン準備
	9	14:40-15:20	全体シェア	プレゼンテーションとフィードバック
	10	15:20-15:40	ふりかえり	・ふりかえりシート記入とシェア
	11	15:40-15:50	講評	・実現に向けて意欲を高めるコメント
	12	15:50-16:00	閉会・写真撮影	・閉会挨拶、集合写真

イベントの実施内容

■ プログラム①: 広域地方計画の概要説明

- ✓ 作成した広域地方計画を説明する動画(15分程度)を放映
- ✓ その後、プログラム紹介、グループワークのテーマの説明及びグループ分けを実施

[会場レイアウト・配席図]



イベントの実施内容

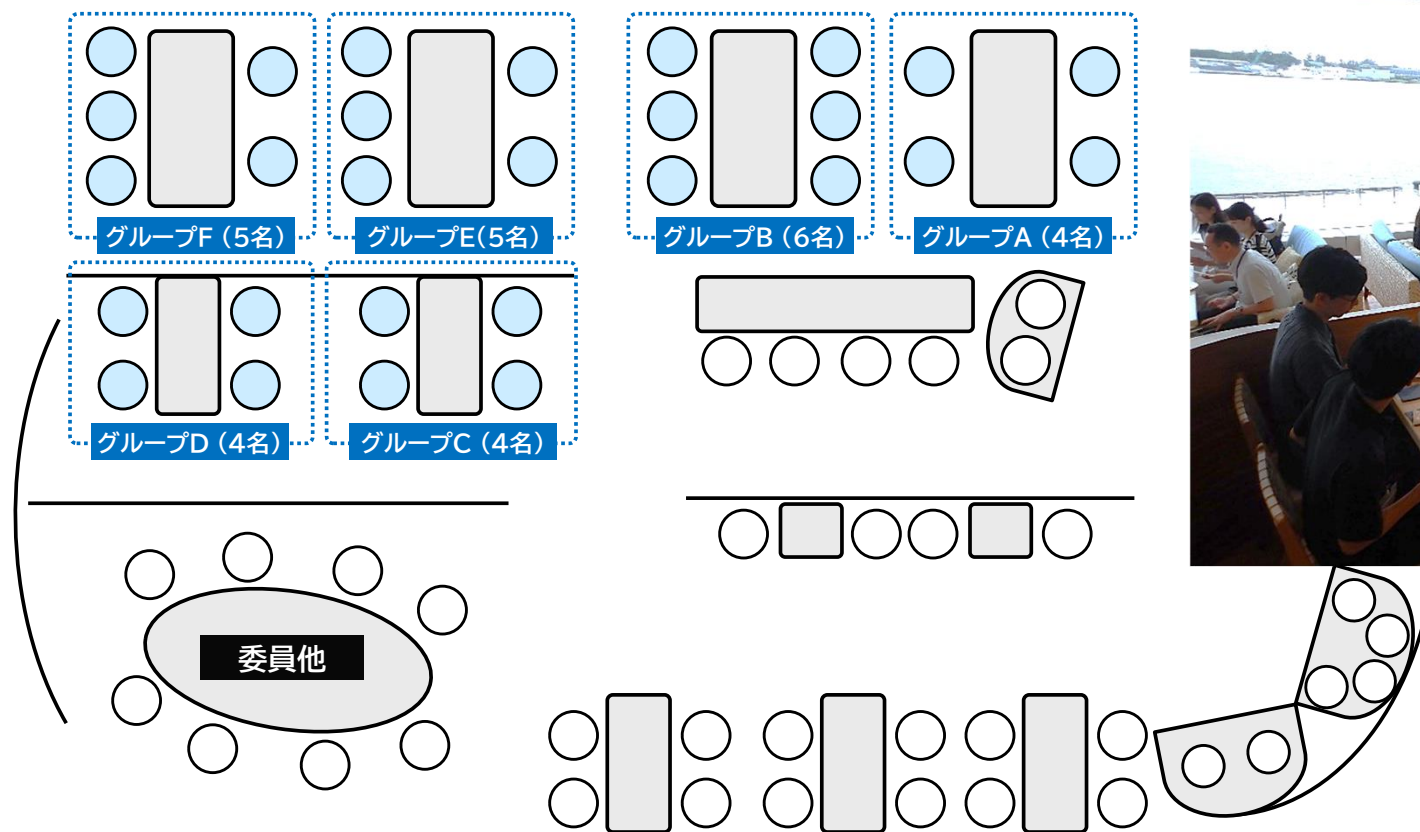
■ プログラム②:ランチミーティング

【会場】海の食堂 BAY ARCE

- ✓ 会場内レストラン(セミナールームと同フロア)でランチミーティング
- ✓ テーブルは午後からのワークショップのグループごとに着座

【会場レイアウト・配席図】

窓 側

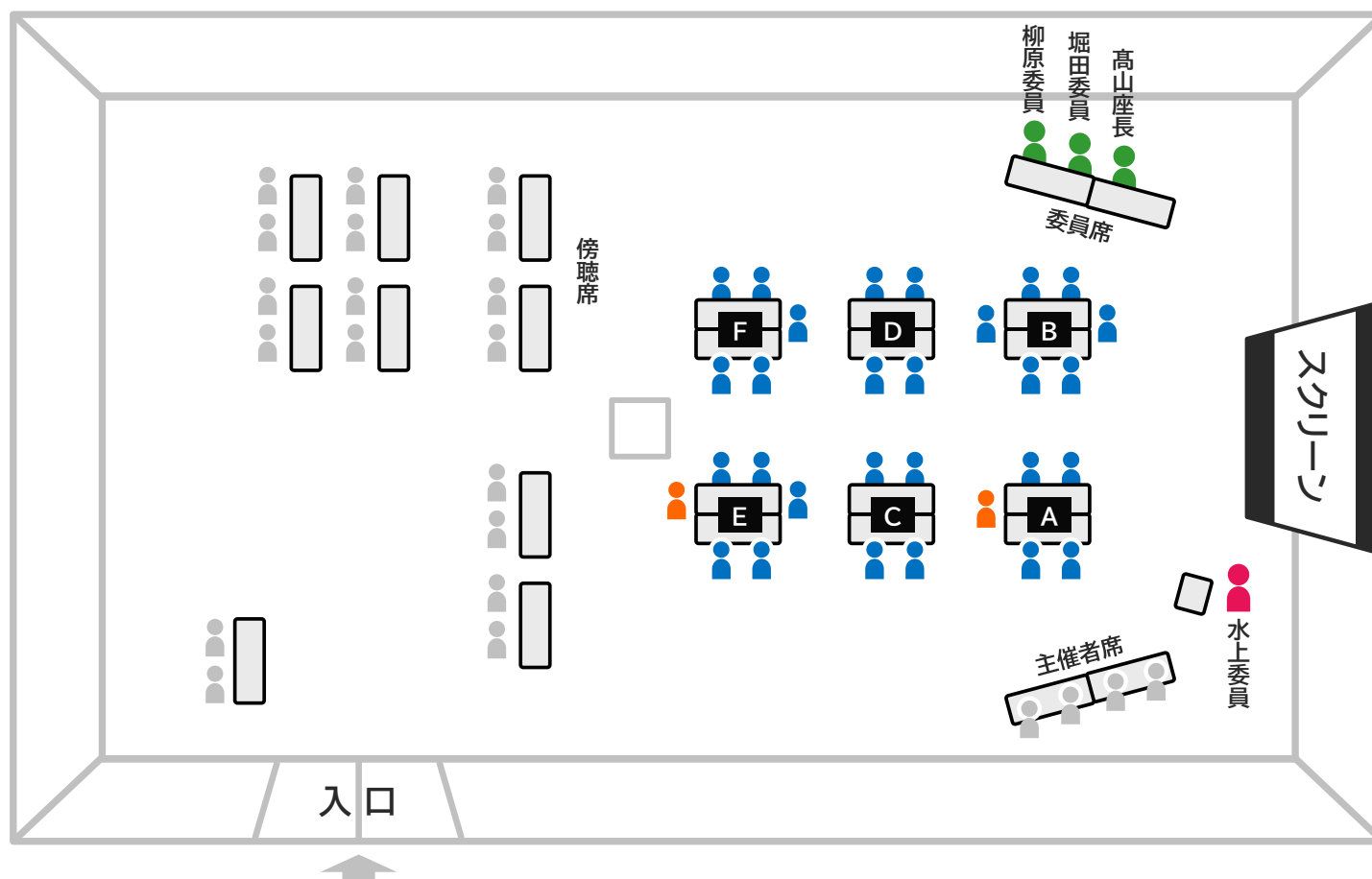


イベントの実施内容

■ プログラム③:ワークショップ

- ✓ 全体の進行・まとめ役を担当するメインファシリテーターは水上委員が担当
- ✓ A、Eグループにはグループファシリテーターが参加
- ✓ ワークショップの実施状況を撮影して、後日アーカイブ動画として配信予定

[会場レイアウト・配席図]



- メインファシリテーター
- コメンテーター
アドバイザー
- グループファシリテーター
- 参加者(若者)

開催結果の概要

○若者・女性の意見を積極的に広域地方計画へ反映させることを目的に、令和7年6月14日に「ほくりくダイアログ2025」と題して、若者・女性からの意見を聴取するワークショップを開催した。

■ほくりくダイアログ2025

[日時] 令和7年6月14日（土）11:00 ～ 16:00

[会場] 金沢港クルーズターミナル（金沢市）

[参加者数] 28名（一般公募により集まった北陸圏に関わりのある若者・女性）

[プログラム]

- ①開会・導入：開催趣旨、広域地方計画の紹介
- ②ランチミーティング：昼食しながらチームビルディング
- ③参加者の土台づくり：自己紹介名刺づくり
- ④ワーク1：新しい担い手として考える計画の実現
- ⑤ワーク2：提案を効果的に伝えるプレゼン準備
- ⑥全体シェア：プレゼンテーションとフィードバック
- ⑦ふりかえり：振り返りシート記入とシェア



[ランチミーティング]



[コーディネーター 水上委員]



[グループワークの様子]



[参加者全員で記念撮影]



[全体シェア・発表の様子]



ワーク結果①:参加の土台づくり 自己紹介名刺づくり

■ワークの概要

- ワークショップ開始前に北陸圏への思いを連想する「色」を選択し、その理由を紹介してもらった。
- ワークショップ終了後に同じように「色」を選択してもらい、開始前との「色」の変化を比較した。



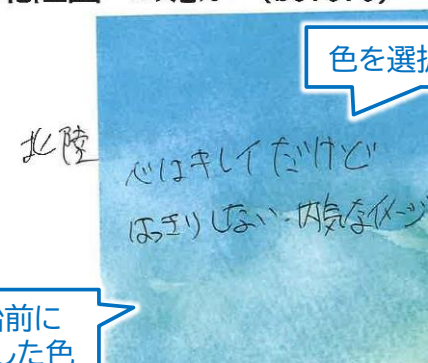
[若者が作成した実際のワークシート]

名刺づくりワーク

名前、属性、出身県、現在の居住地

上市町役場
富山県
上市町

北陸圏への思い (before)



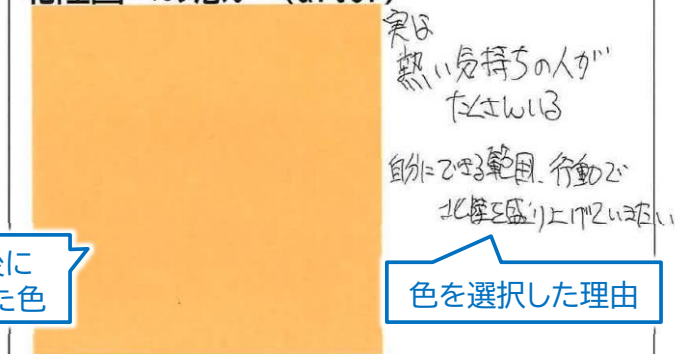
色を選択した理由

開始前に
選択した色

今日、何を期待するか

様々な立場の人の意見を聞いてみたい

北陸圏への思い (after)



色を選択した理由

終了後に
選択した色

「色」の変化として可視化させることで、ワークショップ後の気持ちや意識の変化を参加者に認識してもらう

ワーク結果①:参加の土台づくり 自己紹介名刺づくり

■ワークの結果（北陸圏への思いを連想する「色」の変化）

- 開始前に最も多く選ばれた色は混合色であり、自然や文化に恵まれているという思いや、自分らしく、多様に生きられる北陸になることを願う思いがあげられ、さらに終了後には混合色を選択する方が増加しており、参加者との対話を通じて北陸圏の多様性を感じたものと考えられる。
- また、開始前に桃色等のパステルカラー（淡い色）であったが、終了後は赤色等のビビッドカラー（鮮やかな原色）を選択する方が複数おり、アクションプランの提案を通じて、自らも北陸圏に対する情熱（≡将来形成に対する主体性）が芽生えたものと考えられる。

開始前

 混合色	7名	 橙色	3名
 桃色	4名	 その他	11名
 赤色	3名		

その他の内訳
黄色、緑色、青色、白色:各2名
紫色、灰色、茶色:1名



終了後

 混合色	12名	➡	北陸圏に <u>多様性</u> をイメージする方が増加
 赤色	6名	➡	北陸圏に対するイメージが「 <u>情熱</u> 」に変化
 橙色	2名		
 その他	8名		

その他の内訳
黄色、緑色、青色、紫色、桃色、白色、茶色、銀色:各1名

【色ごとで主にあげられた思い】 ※開始前と終了時であげられた思いを合わせて記載している。

- | | | | | |
|---|---|--|--|-----------|
|  エネルギーを秘めている | 参加して熱い気持ちになった |  あたたかい街 | 参加して熱い気持ちになった | |
|  未来や新たな環境への希望 |  自然豊か | 誰もが穏やかな暮らし |  心はきれいだけど内気 | 困難を乗り越える力 |
|  刺激が足りない | ☐ 刺激が足りない | まだ特別な想いが無い | 色々な人が混ざり合う | |
|  先が不安だがアイデアによって白くできる |  地元をどうにかしなきゃという使命感 | 自慢できるものは身近に | | |
|  強い北陸になったらいい | | | | |
|  良さもあるけど将来への不安もある | 自然や文化の豊富さ | 自分らしさ・多様性 | つながって価値を生み出す | あらゆる可能性 |

ワーク結果②: グループワーク 新しい担い手として考える計画の実現について

■ ワークの概要

○「シティズンシップ教育プログラムの開発」、「中心市街地のにぎわい創出」、「防災に強いレジリエンス創造」の3つのテーマに関する、北陸圏広域地方計画に反映させる具体的なアクションプランを提案してもらった。

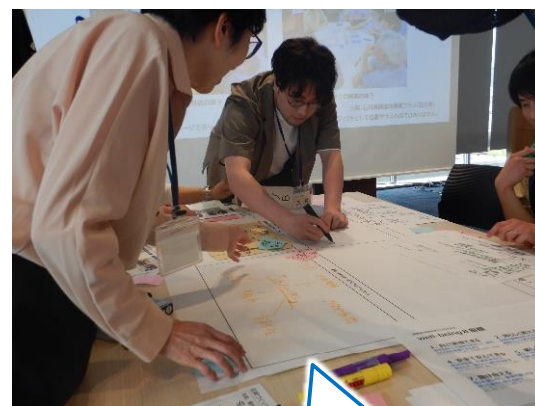
【提案をまとめる模造紙】

テーマ：

グループ記号：

現状と課題分析	実施体制（5W1H）
課題解決のための アクション（プロジェクト）	実現のための第一歩 プロジェクトのゴール

生まれるwell-being：



付箋を貼ったり
書き込んだり
自由に話し合い



アクションプランを
提案！

【アクションプランのイメージ】

アクションプランの例①

■ シティズンシップ教育プログラムの開発

【取組例】坂井市ストップ地球温暖化対策授業【福井県坂井市】

・地球温暖化を解決するために、シティズンシップ力の成長をめざして坂井市内全ての小学校で取り組む出前事業



ストップ地球温暖化対策授業の様子



対話形式で環境問題について学ぶ

出典：ストップ地球温暖化対策授業（坂井市ホームページ）

※上記はアクションプランのイメージであり、必ずしも当該事業が北陸圏広域地方計画のプロジェクトとして位置付けるものではありません。

アクションプランの例②

■ 中心市街地のにぎわい創出

【取組例】まちなかウォーカブル推進事業【富山県富山市】

・路面電車など公共交通ネットワークを活かしたまちづくりとして、「歩きたくなるまちづくり」を推進



社会実験「よぞら駅」



社会実験「えきのあそび場」

出典：ウォーカブルなまちなかアイデア案（北陸地方整備局）

※上記はアクションプランのイメージであり、必ずしも当該事業が北陸圏広域地方計画のプロジェクトとして位置付けるものではありません。

アクションプランの例③

■ 防災に強いレジリエンス創造

【取組例】のど未来トーク【石川県能登地方 他】

・令和6年能登半島地震の被災地等において、地域の将来を住民当事者で考えるイベントを開催



珠洲市での開催の様子



金沢市での開催の様子

出典：石川県創造的復興プラン（石川県）

※上記はアクションプランのイメージであり、必ずしも当該事業が北陸圏広域地方計画のプロジェクトとして位置付けるものではありません。

ワーク結果②: グループワーク 新しい担い手として考える計画の実現について

■ ワークの概要



[提案をまとめる模造紙]

提案したいアクション
プランのテーマ

テーマ: _____

テーマに関して、現状
どのような課題が
あるか？

課題を解決するために、
どのようなアクション
が求められるか？

必要なものは
なにか？

現状と課題分析

課題解決のための
アクション（プロジェクト）

生まれるwell-being:

何が困難に
させるのか？

グループ

どのようにして
取り組むのか？

実施体制（5W1H）

実現のための第一歩
プロジェクトのゴール

実現するためには、
誰の力が必要か？

こんなことが
できそうだ！

目指すべき社会の
姿はこうだ！

まず何から始めるか？



ワーク結果③: 全体シェア プレゼンテーションとフィードバック

■ ワークの結果 (各グループのワーク結果(模造紙))

グループA

テーマ: 新しい科目「自己」の策定 

グループ記号: A

現状と課題分析	実施体制 (5W1H)
世代間の考え方のギャップ 排他的文化 小さい頃の同年代とはどこへ? 価値観の違いを押し付け 男女役割の意識の決まり	Who: 小学生 低～高 Where: 小学校 教育現場 When: 週1に1コマ カリキュラムに導入 Why:
課題解決のためのアクション (プロジェクト)	実現のための第一歩プロジェクトのゴール
「自己」の授業 What: How: おじいちゃんおばあちゃんに伝える 小学校で味わう 好きなことを自分らしく話す	出る杭が打たれない社会をつくる。

生まれるwell-being: 2. 誇らしく思える 3. 自分らしくいられる 8. 互いを尊重できる

ワーク結果③: 全体シェア プレゼンテーションとフィードバック

■ ワークの結果 (各グループのワーク結果(模造紙))

グループB

テーマ: **わたし色の北陸学** グループ記号: **B**

現状と課題分析 今 現状 中期 未来	実施体制 (5W1H) WHEN... 小・中・高時代から WHERE... 学校・地域・企業・その他の自治体・国 WHO... 子どもが主役、それを取りまく人々(大人、外国人、etc) WHAT... 身の回りの自然・公園・好きなもの・歴史 WHY... 座学だけでなく五感も使って HOW... 地域の人々や、大人やさまざまな人々と交流し話し合い学ぶ合う、あそぶ
課題解決のためのアクション (プロジェクト) 「自分らしい北陸を語る」	実現のための第一歩プロジェクトのゴール 土台 地域理解 内発的動機 なんでもOK!! 地域への語り 自主性 多様性 貢献性

生まれるwell-being: ① 自分実現 ② 自分らしくいられる ③ 互いを尊重できる

ワーク結果③: 全体シェア プレゼンテーションとフィードバック

■ ワークの結果 (各グループのワーク結果(模造紙))

グループC

グループC

テーマ: 中心市街地の活性化(駅前~片町) グループ記号: ○

現状と課題分析	実施体制 (5W1H)
多世代で 交流の場がない 横縦のつながりを持たない Q 何のためにあるの?	Who 学生サークル 建コン コンサート Why Where How When ↓ 市街地にアパレル系が来れば人が来る What
課題解決のためのアクション (プロジェクト)	実現のための第一歩プロジェクトのゴール
エ) カフェ ホテル 環境 その他 有料の場所や時間を確保する 歩行者優先の日を作る 休憩ポイント 屋敷村 周辺の市街地を巻き込む 安全な公共交通 高層ビルを住まい 学校(大学) 大人も学べる	ハイク アートフェスティバル 学生も入る 学校の時間外活動 便利な学校 2人1組で巻き込む 新しい学校

生まれるwell-being: 1, 2, 3, 5, 6, 7, 8

ワーク結果③:全体シェア プレゼンテーションとフィードバック

グループD

[illegible]

ワーク結果③:全体シェア プレゼンテーションとフィードバック

グループE

テーマ:

官民連携 防災プロジェクト

グループ記号: E

現状と課題分析	実施体制 (5W1H)
・自分ごととしてとらえていない。 町会にまだ防災的に参加してない ← 特に若い人がいない 行かなくていいならやらないと思ってる メリットがないから参加しない? ・世帯の代表世代が中心 ・活動する資金がない ・みんなタタ世代が系内得できない ・回答板を見ていない	
課題解決のためのアクション (プロジェクト)	実現のための第一歩プロジェクトのゴール
	“防災”をみんなが楽しく 取り組めるものに!! 子供も 防災 de ポイ活

生まれるwell-being: 4, 5, 6, 7

ワーク結果③:全体シェア プレゼンテーションとフィードバック

■ ワークの結果（北陸圏広域地方計画への提案(一例)）

シティズンシップ教育
プログラムの開発

- グループ A ➤小学生が自らが興味のある事を話し合ったり、そのことを地域の高齢者に教えるといった新しい授業カリキュラムの策定(新しい科目「自己」の提案)
- グループ B ➤子供たちが能動的に自らの地域について学び、それらを圏外の方に語れるような授業カリキュラムの策定

中心市街地の
にぎわい創出

- グループ C ➤中心市街地に多世代・他地域が参加して交流を促進するプラットフォームの設立
- グループ D ➤食や音楽などの文化を活かして、若者が安心して集えて遊べる界隈(商店街など)の形成

防災に強い
レジリエンス創造

- グループ E ➤地域防災活動を楽しく取り組むため、防災訓練に若い世代の参加を促す仕組みづくり(例.ポイント付与等)
- グループ F ➤地域防災力の向上にむけて、自助、共助、公助に加えて「近助(近くで助け合う)」という考え方を追加し、防災に関わるイベント(例.運動会やキャンプ)を開催

■ ほくりくダイアログ2025に参加して変化した気持ちや考え(一例)

※感想の原文

【特に楽しかったこと】

- 学生という立場が1人で、様々な属性の方の現場の意見を聞きながら、ディスカッションできたこと。
- 自分事として自分の言葉で語ってくださるみなさんとの時間は最高でした！
- アイデアがたえ間なくでてきて、発想力に驚いた。
- 整備局や国交省は土木の学生としても遠い存在に思っていたので、そういった方たちがどのような考えで地域づくりを行っているのか感じられたのはおもしろかった。

【参画したいプロジェクトと理由】

- 中心市街プロジェクト：楽しむ視点からまちの明るさ、強さをつくってほしい。
- シチズンシップ教育プログラムの開発：地方創生、地域活性化、防災…様々な問題を解決するのは、やはり「人」。
- 関係人口拡大プロジェクト：地域のニッチな話題のマニアを発掘・開拓し関係人口を増やしたい。
- 次回「出会い、結婚、住みたくなる街の仕掛け」があれば是非参画したい。

【新しい気づきとなったこと】

- 一見ネガティブなことが対話によってポジティブな課題(改善点、のびしろ)になる。
- どのプロジェクトも共通で官・民・学・産の連携が必須。
- 北陸は学びの宝庫。伝統や歴史だけじゃない教材が沢山ある。
- 「自分らしくいる」社会をつくることで自主性や多様性、そこからなにかやってみたい思い(貢献性)が生まれるということ。

【今の気持ち】

- 有事のために私自身も防災意識を高めるため、情報をとっていく。
- 比較的実現性の高い、効果的・持続可能な案を出ることができて楽しかった。実現したらいいなと思う。
- 北陸に住む人、関係する人の強みを活かすことで、安心して暮らせるという希望がうまれた。
- 志同じくする仲間を得たい。すでに動いているグループがあればJoinしたい。

参加された有識者等からの総括

- [水上委員] 国土交通省の計画に、極めてソフトで圏民が主体となるための協働の提案が多数できたことの意義は大きい。
- [柳原委員] 北陸圏も見る角度によって様々な魅力が見えてくるため、今回のワークショップが北陸圏が有する魅力をアピールするきっかけになってもらうと良いのではないかな。
- [堀田委員] 北陸圏の魅力を認識するためには、他の地域で生活した経験との比較が重要であり、これらを通じてシビックプライドを高められるのではないかな。
- [高山座長] 土木の大学教育では技術者倫理を1科目で無く、各科目で履修しているように、各取り組みの中でシティズンシップ教育を取り込むことが効果的であり、計画にも反映することが重要である。
- [天野審議官] 北陸の良いものの再発見の観点から提案を頂いた。元々あるものを組み替えて、新しい価値を創造するという意味で地方創生2.0に通じており、役所も同じ方向を向いてしっかり取り組む。



今後の取組方針(案)

○北陸圏広域地方計画の策定に対して、「ほくりくダイアログ」の取組自体や参加した若者等のプレゼンスを高めるため、開催結果等を共有・周知する取組を展開する。

今後予定している開催結果等の共有・周知方策(案)

① ダイアログ参加者との開催結果の共有

- 当日の開催内容やワークショップ様子及び提案内容などをまとめた、ニュースレター(かわら版)や写真集(アルバム)を作成して参加者に送付

② より多くの方にダイアログ開催結果をPR

- 開催概要などをまとめてホームページ上で公開
- 当日の様子をまとめたダイジェスト動画を作成してYouTubeで配信

③ ダイアログ自体や参加した若者等のプレゼンス向上

- 北陸圏広域地方計画の本文内にほくりくダイアログの開催概要を記載(コラムなど)
- 北陸圏広域地方計画の策定に携わっていただいた関係者として、ダイアログ参加者の氏名を巻末など計画内に記載 (※氏名掲載に了承が得られた参加者のみ)